

麦をめぐる事情について

(小麦)

農産局

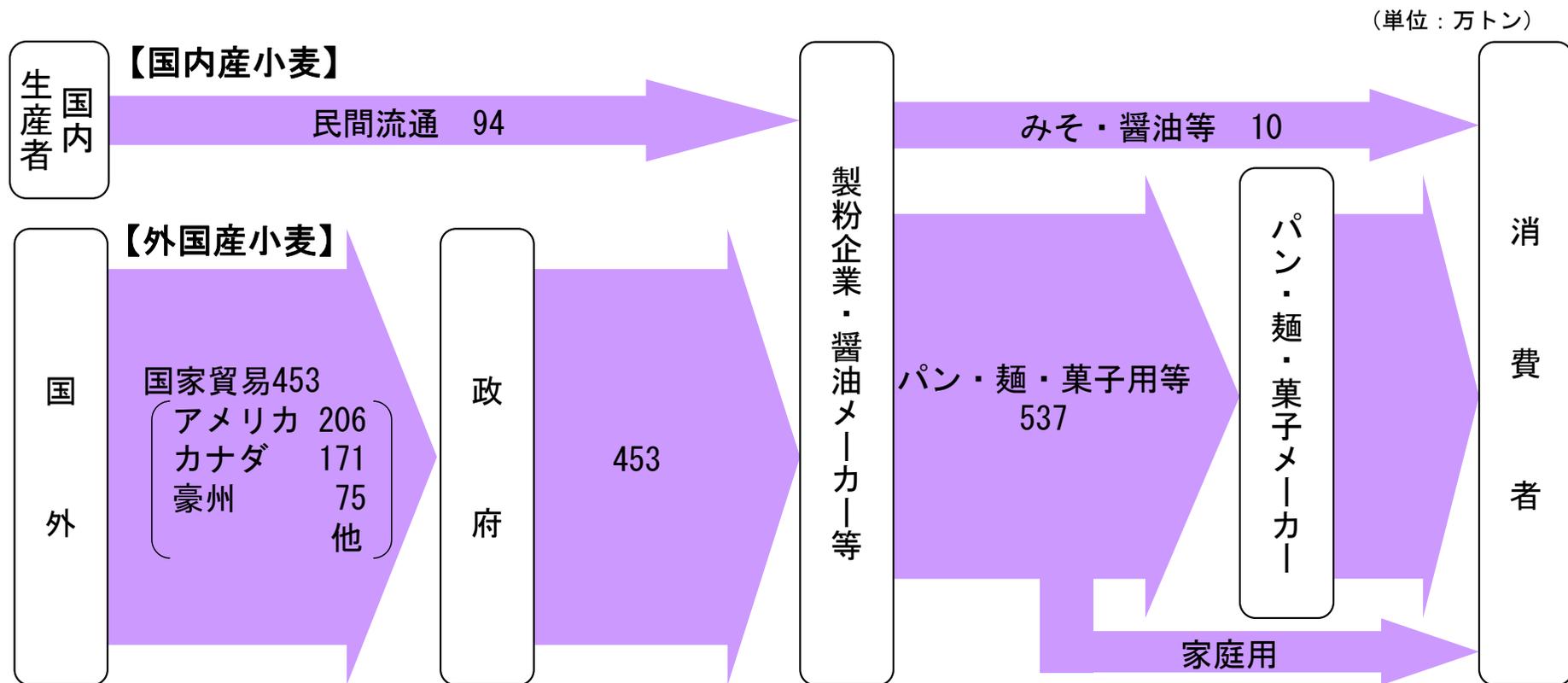
令和 8 年 3 月

農林水産省

小麦の流通の概要

- 小麦は需要量の8割以上を外国から輸入。国内産小麦は民間流通により取引されており、国内産小麦では量的又は質的に満たせない需要分について、政府が国家貿易により外国産小麦を計画的に輸入し、需要者に売り渡しているところ。
- また、米とは異なり、最終的にパンや麺として消費するため、各種の加工工程を経て流通。
- 小麦は、主に製粉企業が製粉して小麦粉にし、その小麦粉を原料として二次加工メーカーがパン・麺・菓子等を製造。

小麦の流通の現状（食糧用）



注：流通量は過去5年（R2～R6年度）の平均数量である。

小麦の種類と用途

- 原料として使用される小麦の種類は、小麦粉の種類・用途に応じて異なっているところ。
- 小麦粉の種類は、たんぱく質の量によって、強力粉（パン用）、準強力粉（中華麺用）、中力粉（うどん用）、薄力粉（菓子用）に分類。

外国産小麦の銘柄	カナダ産ウェスタン・レッド・スプリング (1CW)	アメリカ産ダーク・ノーザン・スプリング (DNS)	アメリカ産ハード・レッド・ウィンター (HRW)	オーストラリア産スタンダード・ホワイト (ASW)	アメリカ産ウェスタン・ホワイト (WW)
輸入数量 453万トン	150万トン	71万トン	78万トン	69万トン	56万トン

小麦粉の種類	強力粉	準強力粉	中力粉	薄力粉
主な用途	食パン 	中華麺 ギョウザの皮 	うどん 	カステラ、ケーキ 和菓子、天ぷら粉 ビスケット 
たんぱく質の含有量	11.5~13.0%	10.5~12.5%	7.5~10.5%	6.5~9.0%

用途	パン用品種	中華麺用品種	日本麺用品種等
国内産小麦流通量 94万トン	19.2万トン (20.4%)	1.2万トン (1.3%)	74.0万トン (78.4%)
(参考) R6年度流通量	北海道産ゆめちから (11.2万トン) 北海道産春よ恋 (4.4万トン)	福岡県産ちくしW2号【ラー麦】 (0.7万トン)	北海道産きたほなみ (52.7万トン)

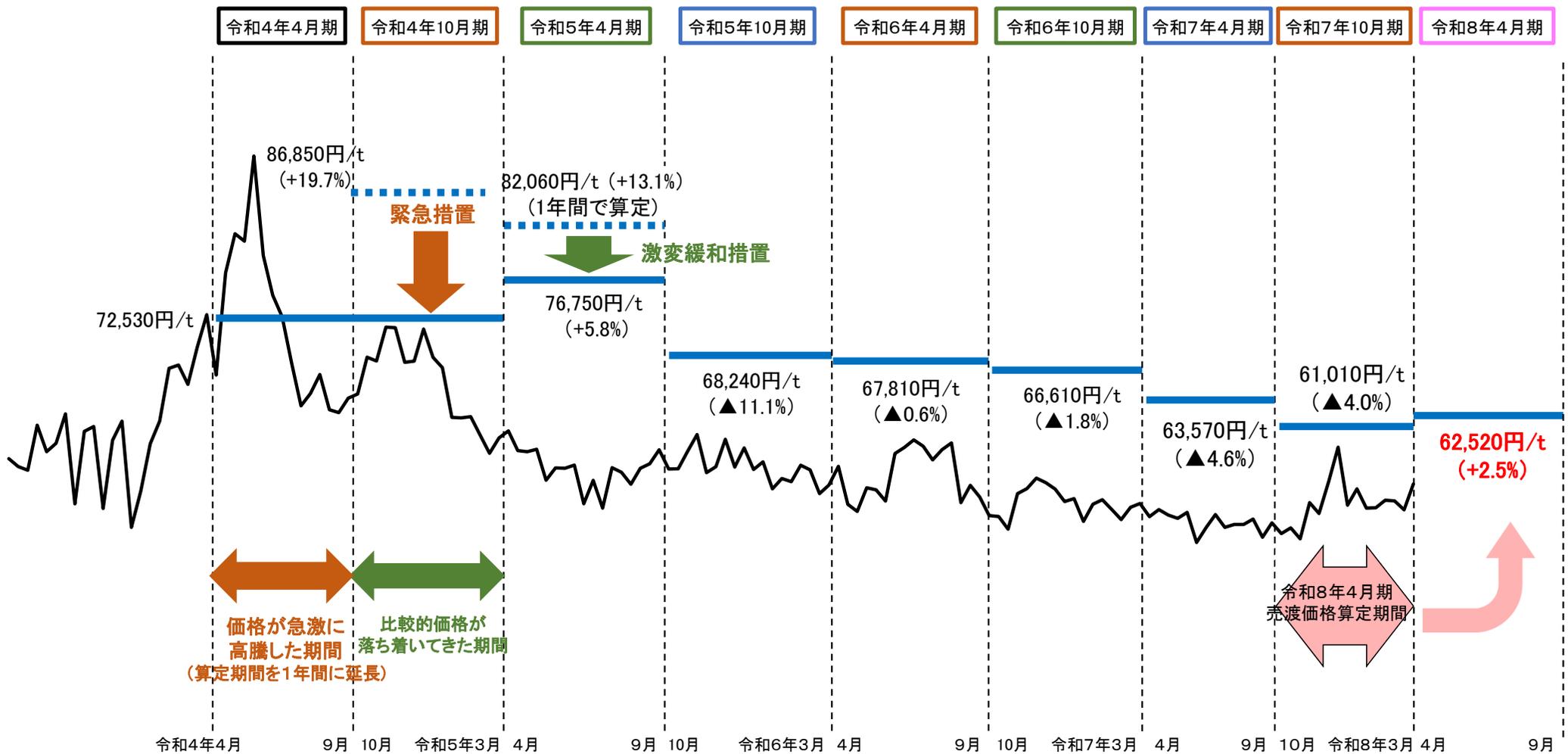
注1：輸入数量及び国内産小麦流通量は、過去5年（R2～R6年度）の平均数量である。

注2：輸入数量は、5銘柄以外の銘柄（デュラム小麦等）28万トンを含む。

注3：国内産小麦流通量は、集荷団体からの聞き取り数量である。

令和8年4月期の政府売渡価格

- 令和5年10月期以降、通常のルール通り、直近6か月間の平均買付価格をベースに算定。
- 令和8年4月期の売渡価格も、直近6か月間の買付価格（令和7年9月第2週～令和8年3月第1週）の平均買付価格をベースに算定。



— : 買付価格 — : 政府売渡価格

輸入小麦の政府売渡価格の推移

* 政府売渡価格

令和7年10月期

61,010円/トン



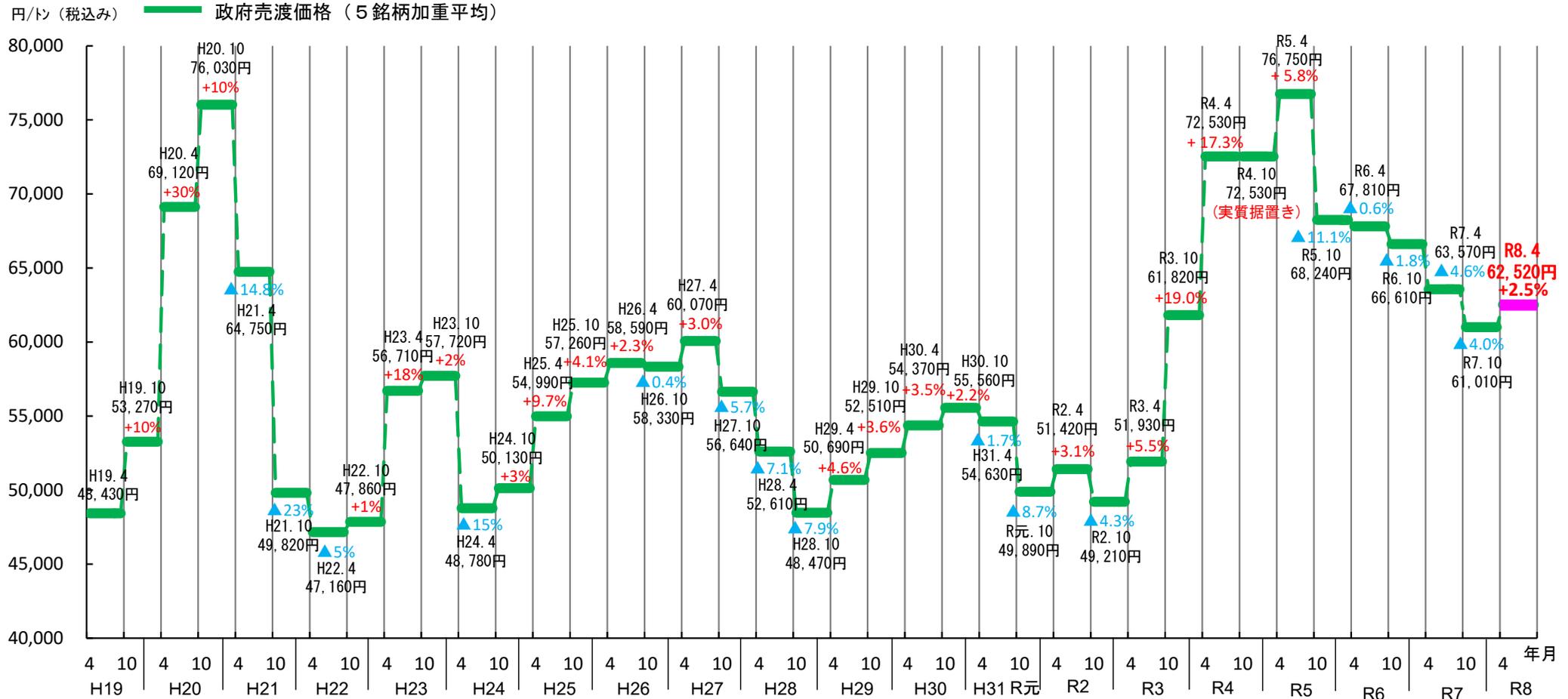
令和8年4月期

62,520円/トン(+2.5%)

(参考)

過去高かった政府売渡価格：76,750円/トン(R5.4)、76,030円/トン(H20.10)、72,530円/トン(R4.4、R4.10)、69,120円/トン(H20.4)

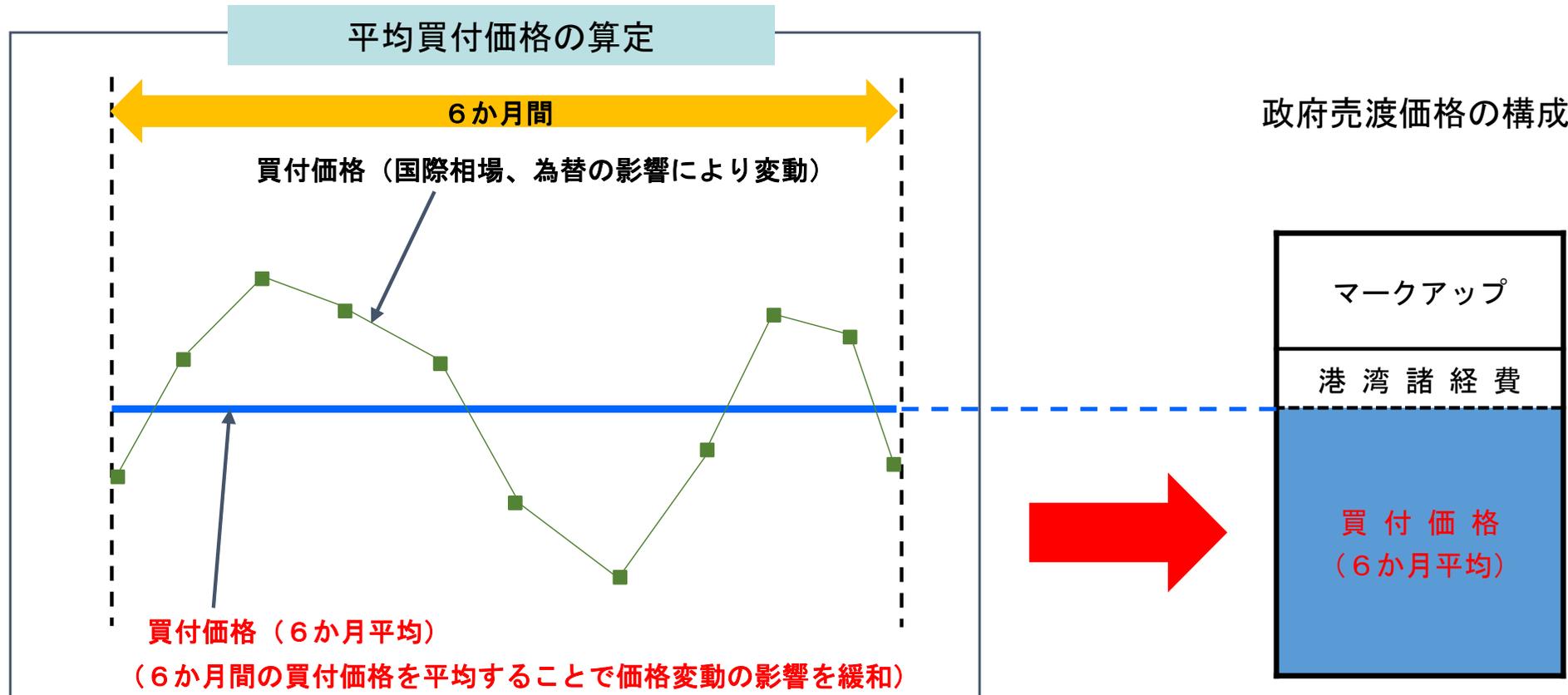
過去大きかった引下げ率：▲23%(H21.10)、▲15%(H24.4)、▲14.8%(H21.4)、▲11.1%(R5.10)、▲8.7%(R元.10)



注：平成25年10月期以前は、消費税5%込みの価格であり、平成26年4月期以降は、消費税8%込みの価格である。

現行の輸入小麦の政府売渡制度

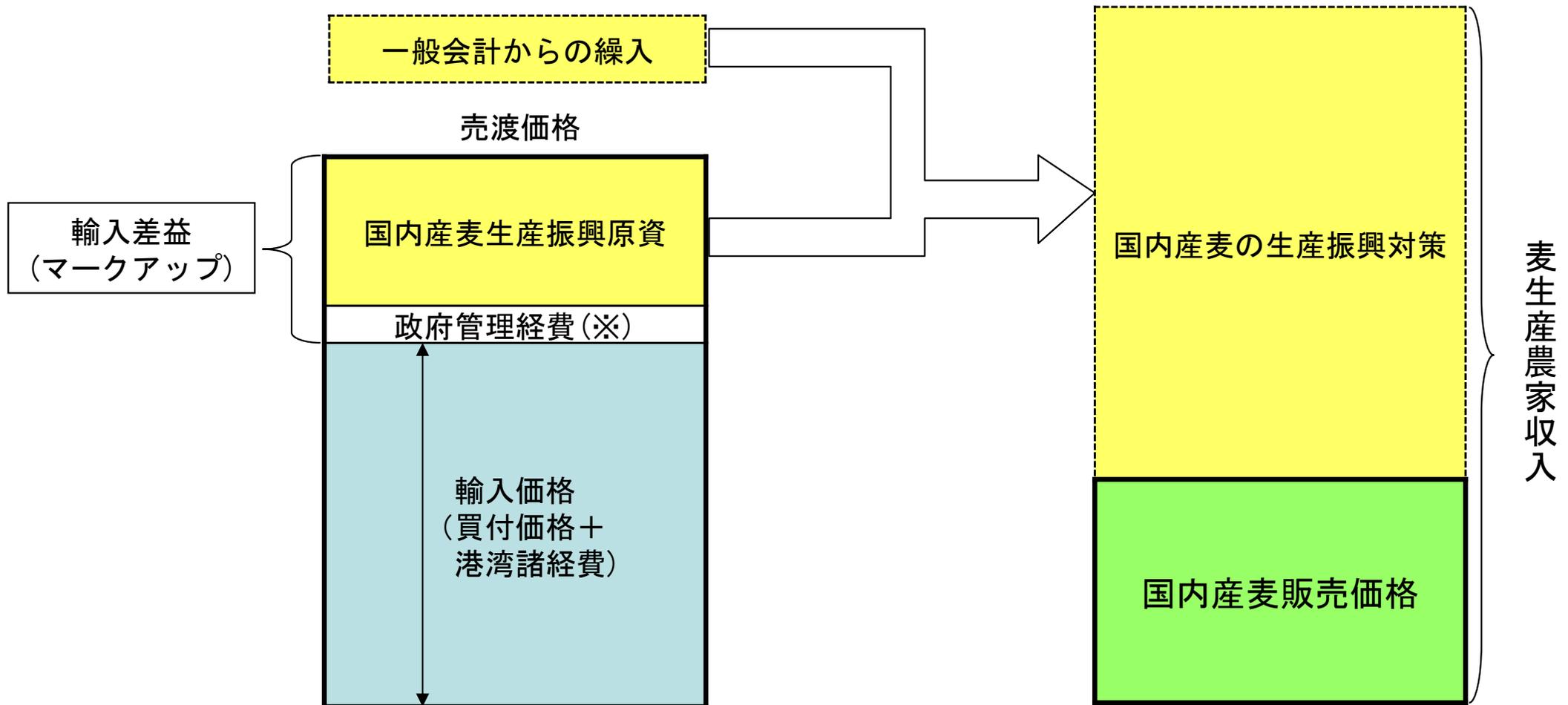
- 輸入小麦の政府売渡価格は、買付価格にマークアップ（政府管理経費及び国内産小麦の生産振興対策に充当）と港湾諸経費を上乗せし、年2回（4月期、10月期）改定。
- 6か月間の買付価格の平均により算定することで、国際相場の変動等の影響を緩和した上で売渡価格に反映。



輸入麦の輸入差益及び使途について

- 輸入麦の輸入価格に上乗せされる輸入差益（マークアップ）は、国内産麦の生産振興及び輸入麦の売買を行うために必要な政府管理経費（※）のみに充当。

- 輸入差益の使途（食糧管理勘定のイメージ図）



※ 輸入麦の備蓄等に要する経費。

国内産麦の取引の仕組み

- 国内産麦は、需要に応じた計画的生産を促進するため、収穫の前年（は種前）に生産者と需要者（製粉企業等）の間で取引数量及び取引価格について契約を結び、その契約に基づき取引を実施。
- 販売予定数量の約3～4割について入札を行い、残りは、入札で形成された価格を基本とする相対取引が行われているところ。

○ 国内産麦の民間流通（例）

<契約の流れ>

収穫前年
7月～ 生産者団体から販売予定数量、需要者団体から購入希望数量の相互提示

生産者団体と需要者
の間で、は種前
に契約を締結

8～9月 入札取引の実施（販売予定数量の約3～4割）

9月～ 相対取引の実施（販売予定数量の約6～7割）

<生産の流れ>

～12月 は種（秋まき。春まきは収穫年の4月）

は種前契約に
基づき、計画的
に作付（は種）

収穫年

麦の生育期間

6月～8月

収穫及び検査

6月～

需要者へ引渡し

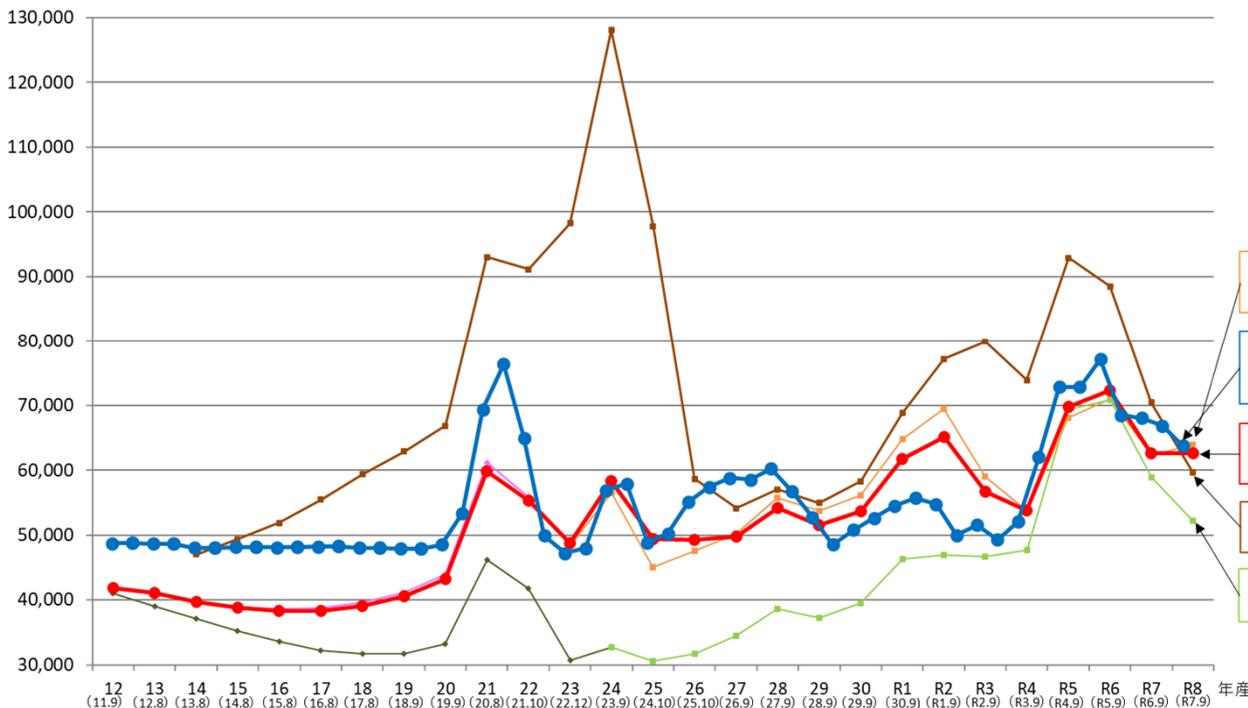
注：生産者団体と需要者で構成する民間流通連絡協議会において、値幅制限等の入札の仕組みが協議・決定されている。

国内産小麦の産地銘柄別落札価格の動向

- 令和8年産国内産小麦の全銘柄落札加重平均価格は、国内産小麦の需要や直近の輸入小麦の価格動向等を反映し、62,554円（税込み）／トン。
- 産地銘柄別の入札結果をみると、需給状況等を反映して落札価格に差が生じている。

国内産小麦の産地銘柄別落札価格の推移

(単位:円/トン、税込み)

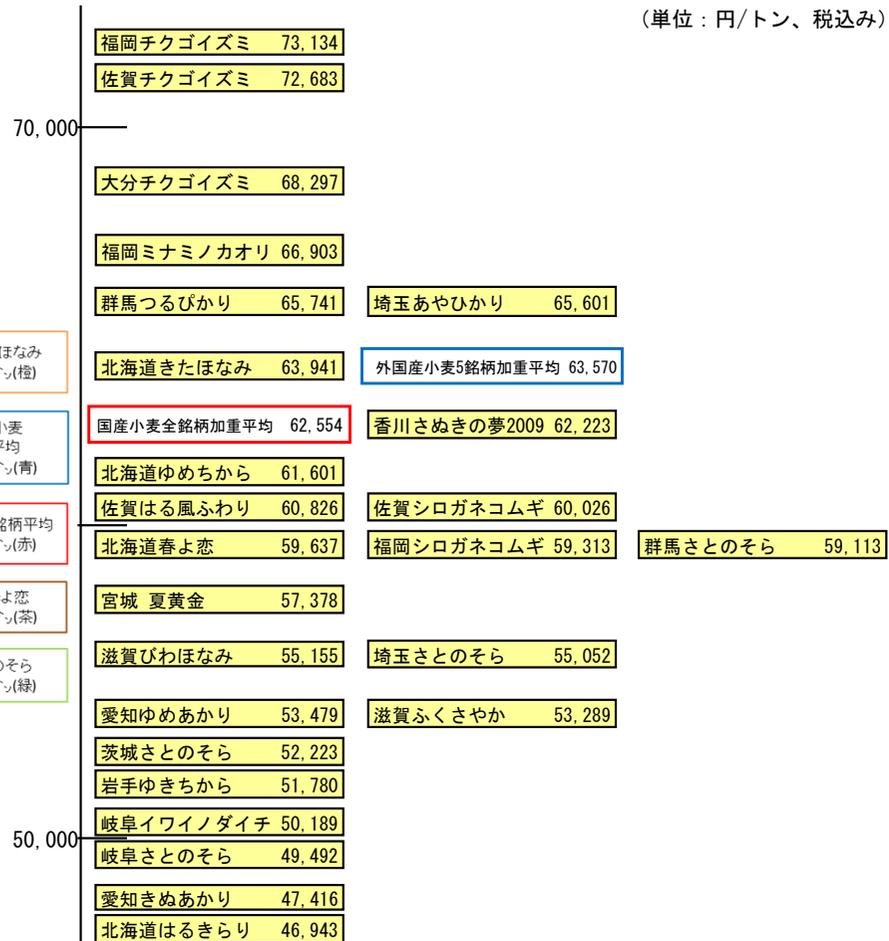


資料:農林水産省調べ。

- 注1:国内産小麦の価格は、(一社)全国米麦改良協会が実施する民間流通表にかかる入札の第1回、第2回及び再入札の落札加重平均価格(税込み)。年産の下段の()内は当該第1回入札の実施年月である。
- 注2:外国産小麦の価格は、18年までは当該年度平均の実績価格であり、19年以降は、民間流通表にかかる第1回入札の実施年月時点での輸入小麦の政府売渡価格(5銘柄平均)である。
- 注3:きたほなみ(ホクシン)については、22年産までは「ホクシン」の価格であり、23年産からは「きたほなみ」の価格である。
- 注4:さとのそら(農林61号)については、23年産までは「農林61号」の価格であり、24年産からは「さとのそら」の価格である。

令和8年産国内産小麦の産地銘柄別落札価格

(単位:円/トン、税込み)



資料:農林水産省調べ

注:外国産小麦5銘柄加重平均価格は、令和7年4月期の輸入小麦の政府売渡価格である。

製粉企業の状況について

- 令和6年度の製粉企業数は60社であり、10年前と比較して28社減少。
- 令和6年度の小麦粉の生産量は4,710千トンであり、10年前と比較して若干減少。

○ 業種概況

項目	平成26年度	令和6年度
企業数	88	60
工場数	109	81
従業員数(人)	3,114	2,789
生産数量(千トン)	4,861	4,710

資料：農林水産省調べ